

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
発行人 竹之内 篤
〒378-0031 沼田市薄根町4412番地
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
E-mail: tonekyou@pref.gunma.lg.jp

『穴を深く掘るには幅がある』

利根教育事務所長 竹之内 篤

「教育は人なり」と言われるように、学校教育の成否は、教職員の資質能力に負うところが大きく、様々な課題への対応のために、教職員の資質能力の向上は欠かせません。

しかし、学校現場においては、教員の大量退職と新採用者の増加、少子化に伴う学校の小規模化等の影響により、これまで自然に行われてきたベテラン教員から若手教員への知識や技術等の伝達が困難となるなど、取り巻く環境は、大きく変化してきています。また、新学習指導要領の趣旨を実現するための資質向上も不可欠となっています。

自分自身の教員生活を振り返ると、資質向上を図る上では、校内や校外における研修が大きな役割を果たしましたが、日常の学校生活における子どもたちとの触れ合いから、多くのことを学ばせていただきました。子どもたちと共に日々成長する中で、「あの時の子どもたちに、こうしてやればよかったのに。」と、以前の自分自身の指導力のなさを悔やみ、当時の子どもたちに申し訳なかったという気持ちに駆られることも多々ありました。また、自分が若い頃は、まだ土曜日は半日勤務だったこともあり、土曜日の午後や平日の夜などに先輩方に声をかけていただき、有志でバドミントンやテニス、懇親会などをして、仕事上の悩みなどを聞いてもらったことも、その後の教員人生に大きく役立っています。

「資質能力の向上」と聞くと、「穴を深く掘るには幅がある」（土光敏夫氏）という言葉が脳裏に浮かびます。深い穴を掘るためには、同時に穴の幅も広げなければなりません。つまり、自分の専門領域だけを深く知るだけでなく、その周辺の事柄についても関心をもち、様々な知識や経験を身に付けたり、人とのつながりをもったりすることにより、専門性をより深く掘り下げることができることを指摘した言葉であると思います。

現在、多忙化解消が大きな課題となっていますが、どんな時代においても、子どもたちとの触れ合いや校内の教職員間のやり取り、他校の教職員仲間や地域の方々等との情報交換など、人との和や関わりを自らの成長に生かしていこうとする姿勢・環境づくりが、「穴の幅」を広げていくことにつながるのではないかと考えています。

学校教育係 授業を変える 子どもが変わる！ ～「はばプラⅡ」の活用～

新学習指導要領に対応した「はばたく群馬の指導プランⅡ」（以下「はばプラⅡ」）が完成しました。「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント」等が具体的に示されています。管内でも、授業改善に向け、単元構想を重視した実践が進められていますが、単元の課題を設けても子どもたちの主体的な学習につながらないといった声も聞かれます。

そこで、「はばプラⅡ」を活用し、主体的な学習につながる単元の見通しのもたせ方のポイントについて紹介します。

子どもたちの主体的な学習につなげるためには、単元の課題をどのように設定すればよいのでしょうか？

それには、単元の見通しをもてるようにすることが必要です。「はばプラⅡ」を一緒に見ながらポイントを確認しましょう。まず、第Ⅰ章の1には、単元の課題について解説があります。

子どもたちが、単元で解決することや学習の方向、目標を達成した姿をイメージできるように単元の課題を設定することが大切なのですね。ポイントを具体的に教えてください。



学力向上CO



授業者

ポイント1 : 子どもたちにとっての単元の課題を各教科等の特質に応じて設定する



ポイントの1つめは、各教科等の特質に応じて課題を設定することです。第I章に掲載されている一覧に例示がありますね。例えば、国語科は「必要感のある言語活動」です。各教科等の詳しい解説は第II章にあります。「国語科の単元の作り方」の「授業改善のポイント」を見てみましょう。【「はばプラⅡ」P2】



「必要感のある言語活動」とは、「話したい・聞きたい・書きたい・読みたい」といった、子どもたちの気持ちが高まるような言語活動のことですね。

単元の学習への興味・関心を高めることができます。教科等には特質がありますので、学習をより効果的に行うために意識できるとよいですね。

ポイント2 : 課題を設定する際に、既習事項や生活体験等を想起させながら、子どもたちの気付きや疑問、思いや願い等を共有させる



ポイントの2つめは、実際の授業で単元の課題を設定する際に、既習事項や生活体験等を想起させながら、子どもたちの気付きや疑問、思いや願いなど、やり取りを通して共有させることです。

具体的にはどのようにするのでしょうか？

「算数・数学科の単元の作り方」を例に確認してみましょう。「であう」過程に「新たな学習内容と関連する既習の知識及び技能との共通点や相違点を見だし、もっと知りたいことや考えてみたいことなどを話し合う」とあります。そして、話し合ったことを整理・分析し、単元の課題設定につなげます。31ページには具体例が載っていますよ。【「はばプラⅡ」P30・31】



小学校4年の面積の学習では、先生が「これまでの学習で似たようなことはありませんでしたか？」と問いかけていますね。それにより、子どもたちが形や単位の学習で学んだことを想起し、新たな学習内容に対する疑問を浮かべています。子どもたちの疑問が単元の課題につながり、課題を自分のものにすることができるのですね。

【 P31 小学校 第4学年「面積」 】

これまでの学習で似たようなことはありませんでしたか？

長さを数ブロックの幾つ分で比べました。

同じように、正方形や長方形の数で比べられるかな。

今度の学習には、形や単位の学習内容やそのときの学び方が使えそうですね。

◇広さについて考えていくという単元の課題を立てる。

基になる正方形の大きさが違えば比べられないよ…もっと分かりやすい比べ方はあるのかな？

長さやかさのときは、cmやdlなどにそろえて比べたな。

同じように、広さも足したり引いたりできるのかな？

広さにも基にする単位があるのかな？

【単元の課題】

・広さも長さやかさと同じように、比べたり計算したりできるのだろうか？

ポイント3 : 単元の課題の予想や仮説等を基に、追究内容や方法、学習の計画などを捉えさせる



ポイントの3つめは、単元の課題についての予想や仮説等を基に、追究内容や方法、学習の計画などを、子どもたちに捉えさせることです。第I章の2、図中の子どもたちのような意識が引き出せるとよいですね。例えば、「社会科の単位時間の作り方（「つかむ」過程）」には、予想と追究内容や方法を明確にする手順が示されていますよ。【「はばプラⅡ」P18】

こうすれば、単元で解決することなどをイメージでき、子どもたちの見通しが明確になりますね。

その通りです。教科等の特質もあり、捉えさせ方の手順等は異なりますが、重視したいポイントです。第II章で具体的に解説している教科等が多いので参考にしたいですね。



分かりました。子どもたちが単元の見通しをもって主体的な学習を進められるよう、3つのポイントを踏まえ「はばプラⅡ」を積極的に活用したいと思います。

「はばたく群馬の指導プランⅡ」は、県総合教育センターのWebページからダウンロードすることができます。各教科等の実践事例や指導案等も掲載されていますので、参考にしてください。